

バナナの重要害虫バナナツヤオサゾウムシ（コウチュウ目ゾウムシ科オサゾウムシ亜科）の分布北限記録

中峯敦子¹・小島弘昭²

Northernmost Occurrence of the Banana Stem Weevil, *Odoiporus longicollis* (Olivier) (Coleoptera, Curculionidae, Dryophthorinae), the Major Pest of Bananas

NAKAMINE Atsuko and KOJIMA Hiroaki

Abstract : The banana stem weevil, *Odoiporus longicollis* (Olivier, 1807), which is a serious pest of bananas, has ever been known throughout the Nansei Islands, from the Ôsumi Peninsula, Kagoshima Prefecture in the north to the Yaeyama Islands, the Ryukyus in the south in Japan. We herein record this species from other localities of Kagoshima Prefecture and an island of Miyazaki Prefecture, representing the northernmost distribution of this weevil.

キーワード：バナナ *Musa* spp., 薩摩半島, 南郷大島

はじめに

ゾウムシ科オサゾウムシ亜科のバナナツヤオサゾウムシ *Odoiporus longicollis* (Olivier, 1807) (図 1, 2) は、バショウ科のいわゆる食用バナナ *Musa* spp. (Zingiberales: Musaceae) に深刻な被害をもたらす害虫として知られている。成虫は、偽茎の葉鞘と葉鞘の隙間に潜むが、幼虫とともに偽茎内で見つかることが多く、内部を穿孔食害する (Padmanaban & Sathiamoorthy, 2001)。

分布は、インド、ネパール、パキスタン、スリランカ、アンダマン諸島、ミャンマー、タイ、マレーシア、インドネシア、中国、台湾、日本など東洋区を中心に広く分布する。

国内においては、1960年代に台湾から沖縄島へ輸送されたバナナの苗に随伴して侵入したと推測され (小濱・嵩原, 2002)、現在、南は八重山諸島波照間島 (Kojima, 2023) から、北は屋久島 (Kojima et al., 2019a) や薩摩黒島 (Kojima et al., 2019b) で確認されている。また、鹿児島県本土では、大隅半島の鹿児島湾 (錦江湾) 沿岸の鹿屋市～南大隅町に分布することが分かっている (Kojima, 2020)。

筆者らは、2023年、上記以外の鹿児島県と宮崎県でバナナから本種を得たので報告する。

1 調査の概要

調査日と調査地 (図 7)、生息状況は、次のとおりである。採集、使用した標本は、鹿児島県立博物館 (地点①, ②) 及び東京農業大学昆虫学研究室 (地点③) で保管する。また、調査及び採集者名を中峯敦子: NA, 小島弘昭: KH と略記し、() 内に示した。

- ① 2023年9月6日 鹿児島県鹿児島市城山町考古資料館前 (NA) 5exs. (赤褐色 : 黒褐色 = 4 : 1) (図 3)
鹿児島県立博物館敷地内にある考古資料館前のバナナの偽茎が立ち枯れていた。押すと偽茎は容易に倒れ、枯れた外皮をはがすと、幼虫の食痕とフラスが見られた。ここでは、成虫とともに2個の空の繭も得た。
- ② 2023年10月13日 鹿児島県鹿児島市清水町私有地 (NA・KH) 5exs. (赤褐色 : 黒褐色 = 2 : 3) (図 4)
私有地に植栽されたバナナがあったため、土地管理者の許可を得て調査した。敷地内では、複数の株を露地栽培していた。そのうち、偽

茎の立ち枯れが認められる一株を調べたところ、成虫が得られた。

- ③ 2023年11月21-22日宮崎県日南市南郷町南郷大島 (KH) 10exs. (赤褐色 : 黒褐色=1:1) (図5, 6)

島中央部の畑脇に植栽されたバナナの衰弱した株と南端 (鞍崎灯台手前) の道沿いで刈り取られたバナナの株元の2ヶ所から得られた。

2 結果と考察

上記のとおり、鹿児島県鹿児島市の2地点と宮崎県日南市の1地点で本種を得た。今回の調査により、鹿児島県薩摩半島での本種の発生が初めて確認され、また、国内の分布北限が更新された (図7)。

亜熱帯植物の食用バナナ *Musa* spp. は「実芭

蕉」とも呼ばれ、鹿児島県本土では、場所により露地栽培での果実の収穫が可能な地域がある。また、奄美大島や種子島で広く栽培され、「糸芭蕉」と呼ばれる *Musa balbisiana* var. *liukuensis* なども、鑑賞用や修景植栽として、しばしば本土の庭園や個人の庭に植えられている。いずれも冬季には、降霜や低温で葉や偽茎が枯れることも多いが、気温が高くなると、新たな芽 (吸芽) が伸長し、大きく葉身を伸展させるので、多年性草本として扱われる。このような寄主植物の露地栽培等が、本種の分布拡大と北上を可能にしていると考えられる。

今後、既に分布する地域からの食用バナナを含むバショウ科植物の苗等の導入には、注意喚起が必要である。さらに、九州本土において本種が分布をどのように拡大するか、追加調査も必要である。

引用・参考文献

小濱継雄・嵩原建二 (2002) 沖縄県の外来昆虫. 沖縄県立博物館紀要 (28): 55-92.

Kojima, H. (2020) Occurrence of the banana stem weevil, *Odoiporus longicollis* (Olivier) (Coleoptera, Dryophthoridae) from mainland Kyushu, Japan. *Nodai Entomology* (2): 5-7.

Kojima, H. (2023) Occurrences of three pest weevils (Coleoptera, Curculionidae, Dryophthorinae) of banana on Hateruma-jima Island, the Yaeyama Islands, the Ryukyus, southwestern Japan. *Nodai Entomology* (4): 10-11.

Kojima, H., K. Suzuki & T. Yôro (2019a) Reconfirmation of presence of three pest weevils (Coleoptera, Dryophthoridae) on banana on Yakushima Island, Kyushu, Japan. *Nodai Entomology* (1): 5.

Kojima, H., N. Kaneko & S. Shimamoto (2019b) Records of four dryophthorid weevils (Coleoptera, Curculionoidea) new to the fauna of Satsuma-Kuroshima Island, the Ôsumi Islands, Kyushu, Japan. *Nodai Entomology* (1): 9-10.

Padmanaban, B. & S. Sathiamoorthy (2001) The banana stem weevil *Odoiporus longicollis*. *Musa Pest Fact Sheet* (5). www.musalit.org/seeMore.php?id=14090 (2024年1月10日閲覧)

佐々木健志・木村正明・河村太 (2002) COLEOPTERA コウチュウ目 (鞘翅目): 157-284. 増補改訂 琉球列島産昆虫目録 (東清二 監修). xxiv+570 pp., 沖縄生物学会, 西原, 沖縄.

鈴木英治・丸野勝敏・田金秀一郎・寺田竜太・久保紘史郎・平城達哉・大西亘 (2022) 鹿児島県の維管束植物分布図集 - 全県版 -. 鹿児島大学総合研究博物館報告 (17): 526 pp.

鈴木茂 (2023) 日本列島の甲虫全種目. <https://japanesebeetles.jimdofree.com> (2024年1月10日閲覧)

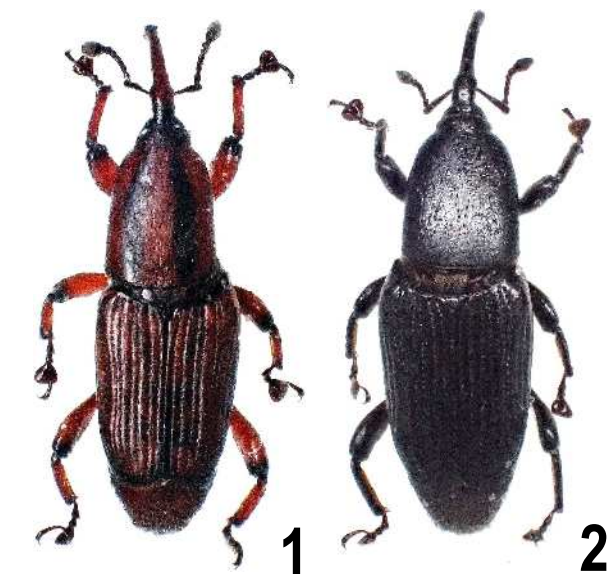


図 1-6 バナナツヤオサゾウムシ *Odoiporus longicollis* とその生息環境

1. 赤褐色型 鹿児島市城山町産（調査地①）； 2. 黒色型 鹿児島市城山町産（調査地①）； 3. 調査地①； 4. 調査地②；
5. 調査地③（島中央部畑脇）； 6. 葉鞘上の成虫（調査地③）

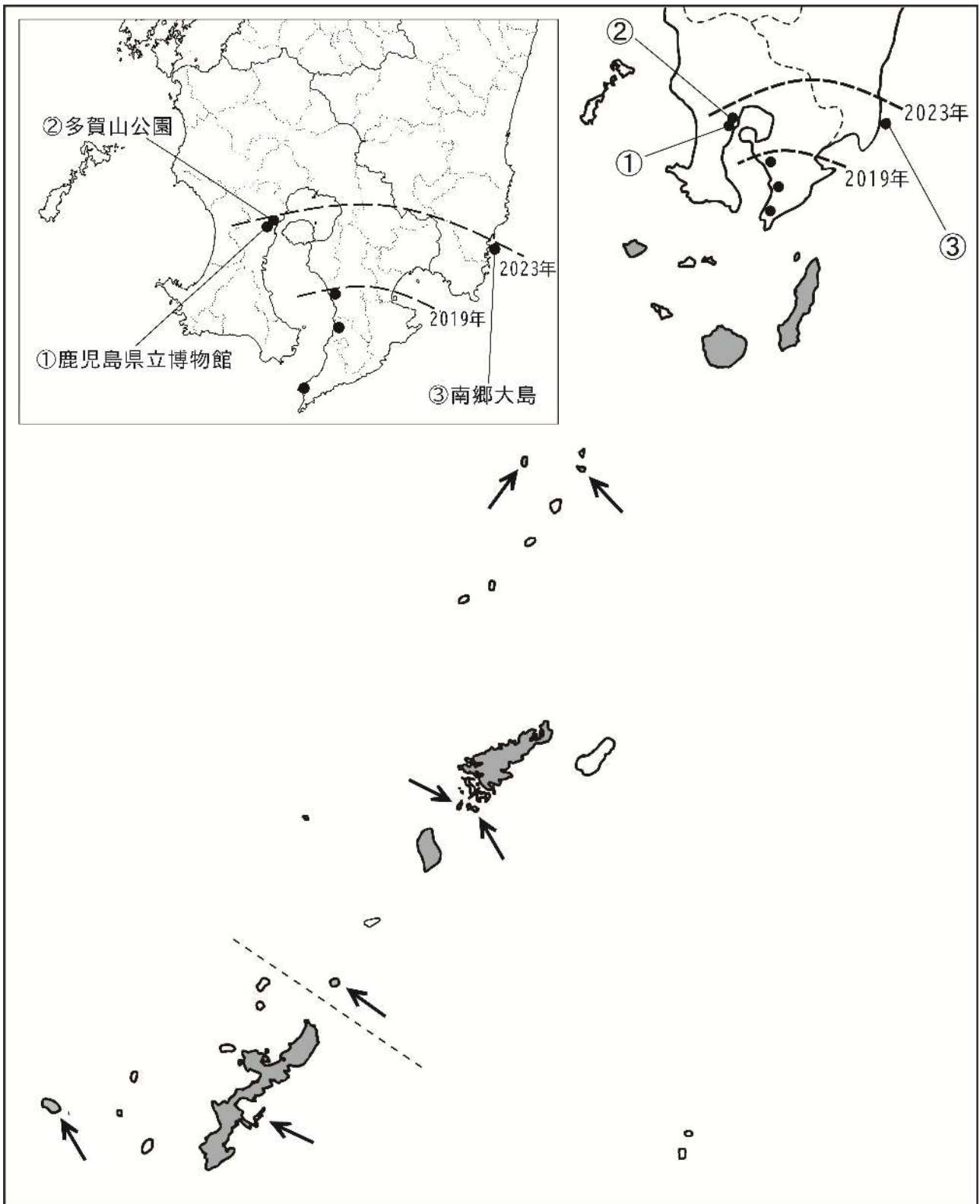


図7 パナナツヤオサゾウムシ *O. longicollis* の鹿児島県・宮崎県での分布（着色部と矢印）と分布北限